**４月１９日　株式会社ガイアックス　代表執行役社長　CEO　上田 祐司 氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

学生の時のアルバイトの経験から創業時の話まで学生の視点を踏まえて話をしてくださって、企業に対する考え方を身近に感じられたので貴重な経験になりました。経営する側は仕事を自分の裁量で全て決めることができ、責任も自分に降りかかってくるという言葉が印象に残りました。やはり自分で仕事の内容から方法まで決めることができるのは、経営の醍醐味だと感じました。 (経営学部・国際経営学科・1年)

ガイアックスさんがやっている「シェア」のビジネスはすてきだなと思いました。インターネットの悪い面として、自分の足で情報を取りに行こうと行動しなくてもスマホで簡単に何でもできる、要は「楽(らく)」な時代ですが、そのネットワークを「シェア」という形で他人とのつながりを持つことで「楽(たのしさ)」にすればみんなが幸せに、優しくなれるなと思いました。（理工学部化生学科2年）

ベンチャー企業のまさしく何も持っていないところからいかに経営を回し始めるかという具体的な方法がとても分かりやすかった。何もないところからは、すべてのことを一気に動かさないと何も動かし始めることができないということである。しかし逆に一気に動かすというこの方法こそがベンチャー企業の爆発力であり大きな津代海になるのだと思う。また、上田さんが注目した「赤の他人ともつながれる」というインターネットの性質は、インターネット特有のもので今までだけではなくこれからも人と人の関わり方や関係性への考え方そのものを変えうるものであると思う。そして起業に必要なのは人脈や資本はもちろんではあるが、何より自分が社会を変えたい、できることをやり遂げたいという気持ちが大事であるという考えは同意できると同時に、やはりリスクというものを克服するのは簡単なことではないと思う。（経済学部経済システム学科2年）

起業するにあたり、出資を集うときには責任や　自分を信じてくれた人に迷惑をかける恐怖が伴うことが分かった。しかし、その恐怖を乗り越えて自分の信念を貫くことで　周りを巻き込み世界を変えることができるのだろう。インターネットの普及により人と人とのつながりが希薄になったと思っていたが、ガイアックスはインターネットを通じて昔ながらの田舎のような人と人とのつながりを生み出すという新しい発想を持っていた。自分もそのような発想のできる人になりたいと思った。

新たな事業を始める際のこわさ、すなわち確実性のないことに人を巻き込むリスクについての話がとても印象に残りました。自らのキャリアをかけて協力してくれる人に対して、良い結果を残せなかったとき、どのように行動すればいいかなど想像もつきませんが、事業を行うとき、そのリスクはいつもついてきます。だからこそ、成功に向けて人と関わり、つながっていくことで新たな見解と対応が生まれると思います。私もそのように人とのつながりを活かして何かを成功に導けるようになりたいと思いました。（経営　会計情報　1年）

「ビジネスを始める」と一口に言っても、漠然としすぎていてイメージがわきませんでしたが、本日の上田さんのお話を聞いて、成功するには「一気に話を進める」ことがスタート地点なのだと分かりました。また、上田さんのように若い頃からアルバイト・ボランティア等の様々な活動に挑戦する姿勢が大切なんだとも感じました。私が感じてないような日常に対する疑問や飽くなき探求心も上田さんにはあり、そういったことを解決しようとし、社会を良くしようとする強い意志もあるからこそ新しい事業も臆せず展開できるのだと思いました。印象に残ったのは「ソーシャルメディアは世界を変える」という言葉でした。赤の他人とつながることは「怖い」という感覚しかありませんでしたが、つながることでの「思いやり」の心を持てるというのは私にとっても新たな感覚でした。(経営・会計情報学科・1年)

今まで自分の中にあった「起業」のイメージを覆す講義だった。ベンチャー企業とはどういうものなのか、何が必要なのか、ここまで生々しくお話を聴いたのは初めて。事業を立ち上げることの面白さと恐怖、どちらも伝わってきた。ベンチャービジネスについてもっと知りたい、くわしくなりたいと感じた。(経営学部会計・情報学科1年)

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

私は今まで先人の教えに従って堅実に目標を達成しようとしてきた。けれども、そんなにのんびりと進めていたら、ガリバーの例のように勢いのある人間に抜かれて行ってしまう。上田さんの言った「一気に進める」ということを肝に銘じて学生のうちに多くの経験を積みたいと思う。（教育人間科学部・人間文化課程学科・2年）

横を通りすぎる車の助手席が空いていることに気をとめたことはありませんでした。そこに注目して企業を起こした人もいるわけですから、ヒントはどこにでも転がっていると思いました。思考を変えて生活するとおもしろい発見が増えると思うし、変えていきたいと思いました。（経営学部・会計・情報学科・１年）

自分が何かするときには、自分にできないことは得意な人を頼ってみるのも大切だと知った。リスクを考えつつ、リターンの大きいことを取捨選択してゆきたいと思う。また、知らない人とのつながりも大切にして常に「何ができるか」「どうすれば人が動いてくれるのか」を念頭に置いて生活していきたいと思った。

堅実に進めていくことの良さもわかるが、相手を説得させるためには前もって練ったビジョンを一気に仕掛けてゆくことで一つの成功からの相乗効果も期待できると思ったので、今後の生活に役立てていきたい。大学時代には様々なことに幅広く没頭していきたい。

持つべきものは能力でも、貯金でも、 ネットワークでもなく、やる気、何かを成し遂げようとする強い意志であるといった考え方は今までもったことがなかったので、前者はもちろんまったく必要ないとは言わないでも、後者について確固たるものをもつために、まずは何かに熱中すること、周りを巻き込みながらも自分の目標を達成するために信念をもって活動することを意識したい。(経営学部・経営システム科学科・1年)

「そもそも何のための事業をするのか」＝「人々や社会、国、世界がこれから先何を必要とするようになるか」は日常の生活で探すことができるので、自分もまずは関心事を深く見つめ、少しずつ関心事の範囲を広げたくさんのモノや面白いサービスを考えてみたいと思います。（経営学部経営学科1年）

**授業スタッフの感想**

起業は何もない０のところから始めるものだという言葉に胸を打たれました。自分が今まで起業するために必要なものや事はなんだろうと考えていたこと自体ダメだったのだなと思い知らされました。上田さんのような考え方が自分にないことはわかっているので、自分だったらどう考えそう行動するのか、過去の先人たちの行いを真似るのではなく、新しい創造を自分が作り出していけるようになりたいと思いました。

新しいことをはじめるためには、人に信頼され、期待される恐怖に打ち勝つことや赤の他人を巻き込んでいく力が必要であるということをお聴きし、より行動的になりたいという意見が多く見られました。私自身、起業することにどういったメリット・デメリットがあるのかはっきりと理解していなかったので、しっかりと事業を起こすために大切な考え方や知識を学ぶことができました。また、できるかどうか悩むのではなく、「無理はない、勝ちにいこう」という気概を持っていきたいと思いました。

多くの人がベンチャー企業の経営をするためには学生のころからお金をためたり人脈をつくったりしているイメージを持っていましたが、上田さんのお話を伺って、そういうことではなく、勉強やバイト、ボランティアなどの身近なことを一生懸命することが大事ということに驚いているように感じました。明確に何をすべきか定められていない私たちにとって今回の講義は本当にためになったと思いました。